

GENERAL
DYNAMICS
/CONVAIR

F-106A DELTA-DART

1/72 スケールシリーズ

ジェネラルダイナミックス/コンバ F-106A デルタ・ダート



ハセガワ



実機写真提供：航空情報

〈F-106A デルタダートについて〉

F-106デルタ・ダートは、1955年にF-102デルタ・ダガーの発達型として計画が開始されました。当初は、F-102Bと呼ばれましたがF-102Aと比較するとエンジン出力は50%も増したJ 57-P17に転換されエアールールを最初から採用したので胴体はすつき翼の付根付近にまでインテイクが後退しました。主翼も後退角を増し垂直尾翼は翼弦が広がって上端を切り落とした形になりました。また、各システム、兵装も相違があるので新しくF-106Aの名称が与えられました。1959年に部隊配備になった後に全機は近代化改修計画によって計器の改修、低空飛行性能の改良追尾装置の追加等が行なわれました。そして、ADCの飛行隊のうちほぼ半数がF-106に切り換えられています。F-106の飛行隊には、F-106B（複座型）が各数機づつ配備されています。この機体は、訓練と実用の両方に使用されます。F-106の生産機数は

複座型を含めて約340機生産されました。F-106の特徴は完備した計器装置・火器管制装置にあります。迎撃機用として最も進歩したヒューズMA-1電子誘導・火器管制装置で地上の半自動防空組織(SAGE)と一体となり地上からの指令は、機内のAFCS(自動操縦システム)に伝え戦闘状況表示器に示され自機と敵機的位置・飛行制限禁止区域、空中待機点等が総合表示方式で示され目標を自動的にレーダーで発見、追尾し、照準を行って最適の位置でミサイルが自動的に発射され同時に自動的に離脱が行なわれます。この間パイロットは、単に計器を監視しているだけでよいのです。武装は、核弾頭つきのA1R-2Aジーニ、A1R-2Bスーパージーニ、A1M-4E、赤外線ホーミングA1M-4F・スーパーファルコンAAMを装備でき全てがミサイルです。ミサイルの発射は、追跡コースでも、衝突コースでも、使用

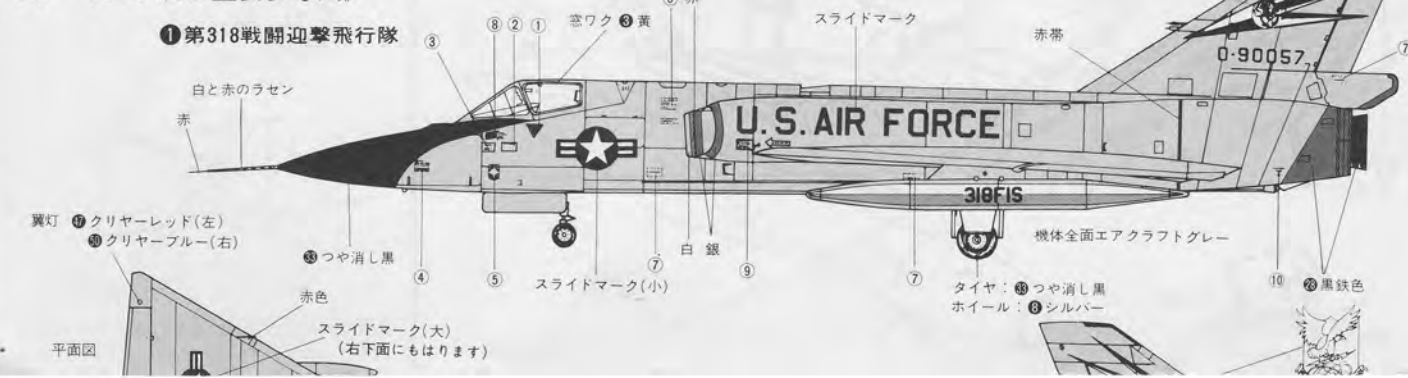
できます。F-106は1959年12月15月に時速2,455.736kmの世界速度記録を樹立しました。F-106は、初飛行以来15年以上になるが、全天候迎撃能力は現在でもなお世界最高の水準にあり、米本土防空の第1線についています。1970年代後半まで就役するため近代化と寿命延長の改良をつづけています。しかし、あまりにも複雑な電子装置のために取扱いと整備の手がかかるのがこれが原因となって起こる可動率の低さは当然といえます。50%以上の可動を常時可能にするには極めて困難な現状です。

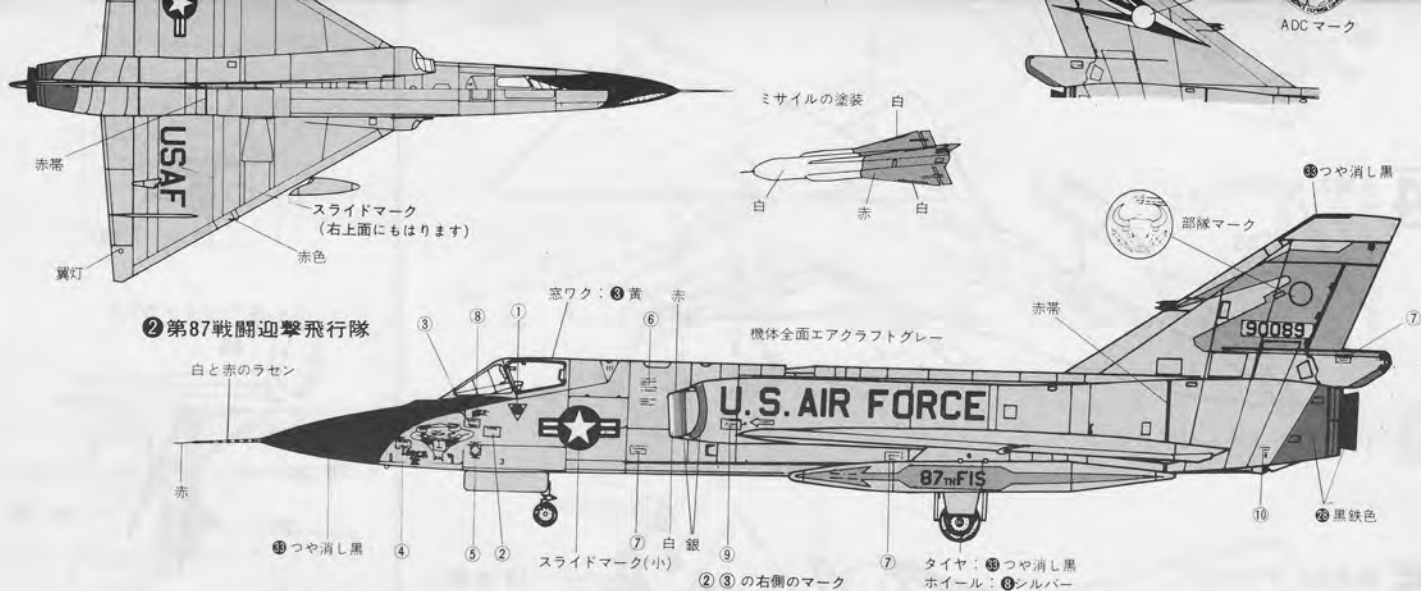
〔106-A デルタ・ダート主要データ〕

全長：21.56m 全幅：11.56m 全高：6.18m
エンジン：P&W J75-P-17 推力：7,800kg
(A/B使用11,100kg)
最大速度：マッハ2.0~2.3
垂員：1名

Marking & Color Painting Guide

〈マーキング及び塗装参考図〉





② 第87戦闘迎撃飛行隊

白と赤のラセン

赤

⑧ つや消し黒

④

⑤

② スライドマーク(小)

② ③ の右側のマーク

機体全面エアクラフトグレー

赤帯

⑨ 90089

⑩ 黒鉄色

⑦ タイヤ: ⑧ つや消し黒
ホイール: ⑨ シルバー

③ 第87戦闘迎撃飛行隊

白と赤のラセン

赤

⑧ つや消し黒

④

⑤

② スライドマーク(小)

ADCマーク

機体全面のエアクラフトグレー

赤帯

⑨ 90084

⑩ 黒鉄色

⑦ タイヤ: つや消し黒
ホイール: ⑨ シルバー

① ② ③ 右側面共通マーク

赤帯

スライドマーク

窓ワク: ⑧ 黄

⑧ つや消し黒

赤と白のラセン

⑩ 黒鉄色

機体全面のエアクラフトグレー

⑦ スライドマーク(小)

F-106A デルターガードの塗装について

脚収容部・脚カバー内側・ミサイル倉内及びミサイル扉は、カーキグリーンで塗装します。車輪はホイールの部分を銀、脚支柱は銀で塗装します。タイヤはつや消し黒で塗装します。インテック内部は機体と同色です。コクピット内部は明るいグレーで塗装します。キャノピ枠は黄色で塗装します。機体色の混合は、初めに少量の塗料で行ない、調子をみてから多量に作ります。エアクラフトグレーは、半光沢塗料で塗装します。

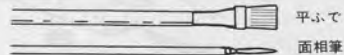
スライドマークのほり方

1. マークを台紙から切り抜き、まわりの透明な部分を切りとっておきます。
2. 水に20秒位浮かべてください。
3. マークを台紙からずらして所定の位置におき、台紙をずらして抜きとります。
4. マークの上からやわらかい布でおさえ、余分な水分と糊をおしだしてください。



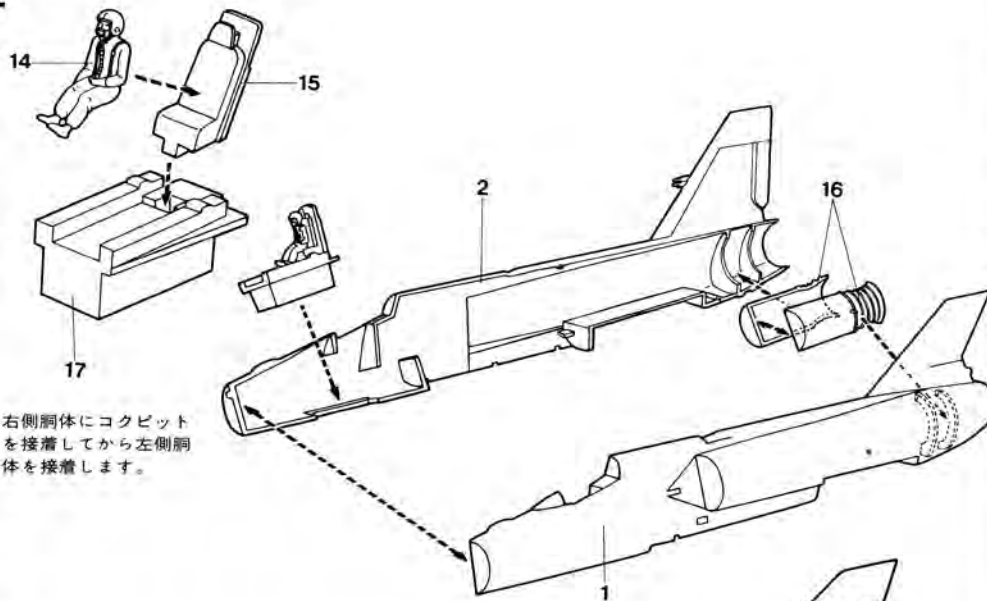
①~⑩の番号はモデルカラーの番号です。くみだてたらかならず色をぬってすばらしいモデルを作りましょう。

エアクラフトグレー (16473) ⑪+少量の⑩
広い面積を塗装する場合は平ふででこまかいところは面相筆で塗装します。



1

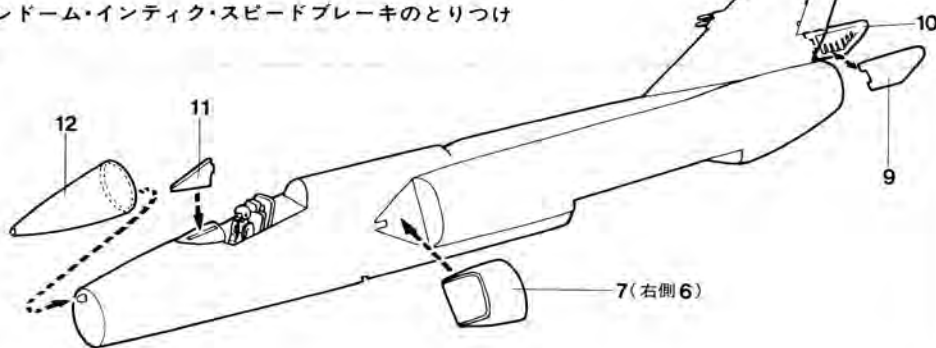
コクピット・胴体のくみ立て



右側胴体にコクピットを接着してから左側胴体を接着します。

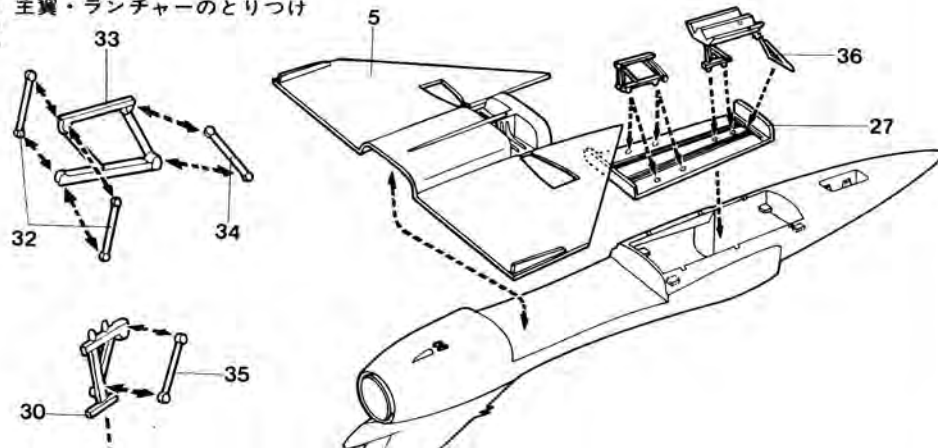
2

レドーム・インテイク・スピードブレーキのとりつけ



3

主翼・ランチャーのとりつけ



★くみだてるまえに

■説明書をよく見て、指示に従って作ってください。

■部品をランナーから切りはなす時はニッパー又は、カッターを作ってください。



①-⑩の番号はモデルカラーの番号です。くみだしたらかならず色をぬってすはらしいモデルを作りましょう。

★注意★

部品を取り出した空袋は幼児が破ったりしない様に破り捨ててください。

★接着剤取扱上の注意★

1. 幼児のいたす所に注意し接着用以外に使用しないこと。
2. 火気に注意し換気をよくすること。
3. 故意に吸わないこと。

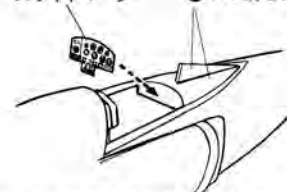
表示者 SZ 3000 SZ 3006 SZ 5013

図-1 パイロットは塗装してからシートに接着します。

コクピット部分は明るいグレー、暗いグレーをつかかわけて塗装して下さい。

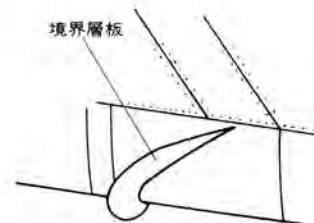


スライドマーク ⑦つや消し黒



スライドマークは台紙ごと切りぬいてはって下さい。

★コクピット内部は、明るいグレーで塗装します。

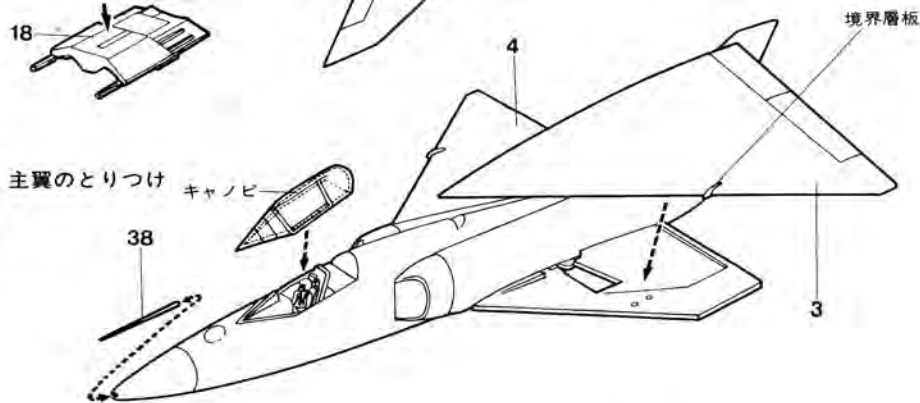


★現在の機体は、境界層板はなくソーカット(切込み)になっていて中は赤くぬられています。

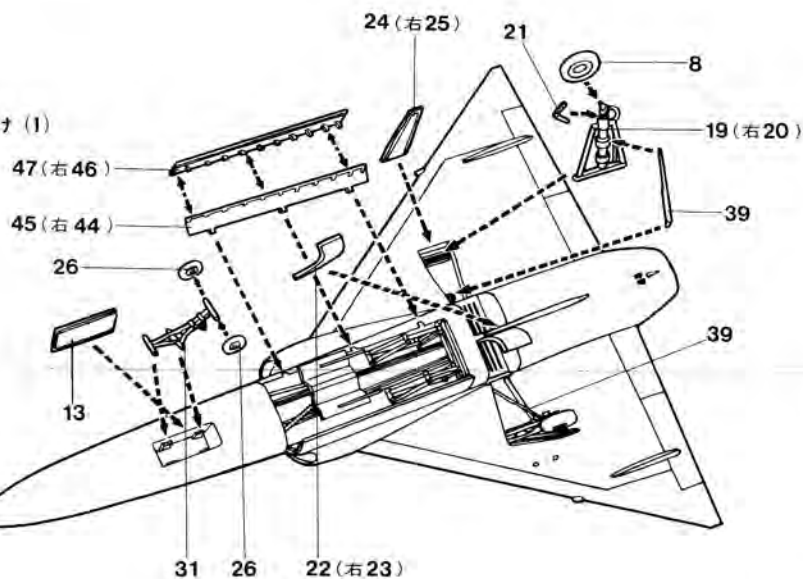
4

主翼のとりつけ

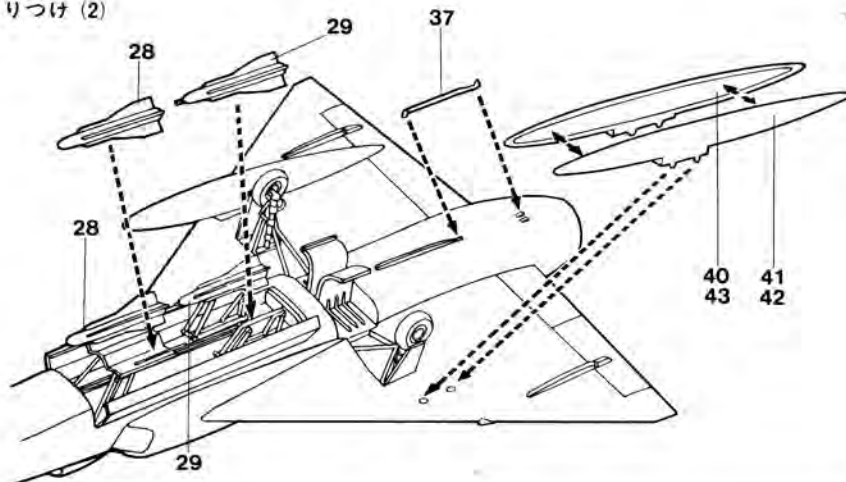
キャノピー

**5**

部品のとりつけ (1)

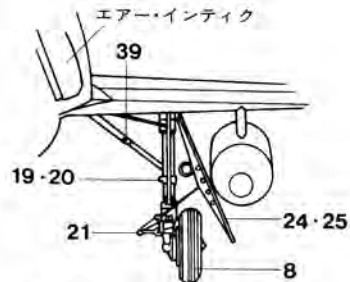
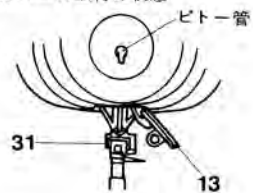
**6**

部品のとりつけ (2)



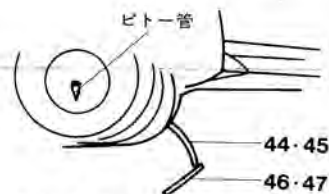
...の取り付けに注意して取り付けて下さい。

★脚、カバーの取付け状態



脚支柱ホイールは全て銀でぬります

図-5 ミサイルカバー取付け状態



ミサイル倉内・ミサイルカバー内側は、カーキグリーンでぬります。

図-6 ミサイルの取付けの際部品番号28を前例に、部品番号29を後例に取り付けます。

《部品番号及び名称》

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 胴体(左) | 25. 主脚カバー(右) |
| 2. 胴体(右) | 26. 前車輪 |
| 3. 主翼上面(左) | 27. ミサイル取容体 |
| 4. 主翼上面(右) | 28. ミサイル |
| 5. 主翼下面 | 29. ミサイル |
| 6. 空気取入れ口(右) | 30. ランチャー支柱 |
| 7. 空気取入れ口(左) | 31. 前脚柱 |
| 8. 主車輪 | 32. ランチャー支柱 |
| 9. スピードブレイキ(左) | 33. ランチャー支柱 |
| 10. スピードブレイキ(右) | 34. ランチャー支柱 |
| 11. ビジョンスプリッター | 35. ランチャー支柱 |
| 12. レドーム | 36. ランチャー支柱 |
| 13. 前脚カバー | 37. アレスティングフック |
| 14. パイロット | 38. ビトー管 |
| 15. シート | 39. 主脚柱支柱 |
| 16. エンジン | 40. 燃料タンク |
| 17. コクピットフロアー | 41. 燃料タンク |
| 18. ミサイル・ランチャー | 42. 燃料タンク |
| 19. 主脚柱(左) | 43. ミサイル扉 |
| 20. 主脚柱(右) | 44. ミサイル扉 |
| 21. オレオ | 45. ミサイル扉 |
| 22. 主脚カバー(左) | 46. ミサイル扉 |
| 23. 主脚カバー(右) | 47. ミサイル扉 |
| 24. 主脚カバー(左) | キャノピー |